

評曰、しらへたし

梅子垂枝(即題)

白妙にはほふのみかは梅の花ちりし後にも實は結ひけり

評曰、めてたし

新 樹(全)

ほとよきすまはなく聲も、れぬまでまけりあひたる夏木立哉

全

ゆふ月夜わか葉かもとに我くれは露の玉ちるこゝちこそすれ

全

ゆく人のよすかど今はなりぬなり日にまけりゆく門の青桐

山 吹

露をたもみ川邊にたる、山吹のまたく水に花のみたる、

つゝし

岩つゝし咲きにけらしな龍田山夕くれなるの色に見えけり

あやめ

わかやどのあやめ生ひけりかみつけのいかほの沼のいかにあるらん

蘆 月

基 紀

萬 古 刀

基 紀

やまひと